

点検・評価 長所と問題点

本学の自己点検評価委員会は、学長を委員長とする全学一体の点検・評価組織であり、具体的な目標を設定しやすく、かつ、改善策を全学的に実施する際には有利であり長所といえる。

問題点としては、教育研究にたずさわる教員は、全員が両方を兼務する体制であり、施設や設備においても併用している関係で、両者を明確に切り分けて検討することが困難であり、大学院の教育研究活動に対する点検・評価および学部と大学院が相互に連携できる点検・評価体制が不十分と思われる。また、前回の点検評価の結果を十分にはフォローしていない。

将来の改善・改革に向けた方策

大学院の教育研究の活性化と学部の活性化とは表裏一体との意識のもと、大学院改革について、いっそう充実した自己点検評価を実施していく必要がある。

また、実施に移された改善策について、適宜見直しそれをフォローできる体制を整備することが肝要であろう。

2 自己点検・評価と改善・改革システムの連結

(1) 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の発展に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

現状の説明

東京情報大学自己点検評価委員会規程に基づき、本学の教育研究および管理運営を恒常的に点検・評価できる仕組みを構築している。

点検・評価 長所と問題点

FDについては、その一部である授業評価に関して教務委員会において実施している。この結果に基づいて方針の検討、是正処置は適宜実施に移されている。

しかしながら、教授法の改善については、各授業担当者の意識改革に期待するというレベルにとどまっており、改善・改革を行うための制度あるいはシステムとしては十分であるとは言えない。

将来の改善・改革に向けた方策

履修暦の多様な学生の受け入れに対する決め細やかな配慮や様々な工夫を必要とする教授法の改善について、全教職員の意識改革を推進する活動なども必要である。また、教育業績の評価システムの確立を目指すと同時に、教育功労・功績が顕著な者について顕彰する制度の創設等も今後検討して行きたい。